



あゆみ

青梅市立河辺小学校 学校便り
7月号 No. 651 令和4年7月1日
青梅市立河辺小学校 校長 関谷 望



早くも梅雨明け、夏到来

校長 関谷 望

例年にない早さで梅雨明けが宣言され、予想を上回る暑さが続いています。学校では暑さ指数(WBGT)を確認しながら教育活動を進めていますが、6月最終週は想定を上回る暑さとなり、対応に苦慮することがあるほどでした。今後も暑い日が続くことが予想されます。

コロナ禍で、すっかり「マスク生活」が定着していますが、学校では、国や教育委員会の熱中症対策方針を受けて、屋外等ではマスクを外すように指導しています。

マスクについては、コロナ禍以前から「マスク依存症」と言われる症状があると言われていました。これは、他者からの目が気になりマスクが外せなくなったり、マスクをすることで自分と他者との間に壁を作らないと不安になったりするなど、対人関係不安を起こす症状だそうです。

感染予防対策としてのマスク着用は広く推奨されていますので、「ずっと外し続ける」という段階ではまだないのだと思いますし、個々の事情でマスクが欠かせない方もいらっしゃると思います。子供たちの心身の健康的な発達のためにも、外せる時・外すべき時にはマスクを外して、互いの表情を見合いながら、コミュニケーションする力を付けてもらいたいと思っています。

「プール開き」からしばらくの間は、低温や雨でなかなか授業ができませんでしたが、ここのところの好天で、プールでの学習も進めることができます。

過去2年間、コロナ禍で思うように学習ができなかったのが、初回の授業では、どの学年でも「水への抵抗感」が感じられ、潜ったり浮いたりすることも思うようにできない様子が見られました。しかし、2回目の授業になると、どの子も見違えるように生き生きと水中で運動するようになり、大きく上達する子も多くみられるようになりました。私も授業に入って一緒に活動することが多いのですが、子供たちから「体験することの大切さ」や「子供の吸収力の高さ」を改めて学ばせてもらっています。

河辺小の今年度のプール指導は、密を避けるために「学級ごと、1回1時間」で行っています。(コロナ禍前には「学年ごと、1回2時間」でした。)

少ない人数での指導となることで、プールサイドで待つ時間がほとんどなく、密度の濃い指導を行うことができていると感じています。また、短時間集中での指導となり、熱中症対策としても効果的です。元々はコロナ禍対応としての措置でしたが、かえって付加的なプラス効果を大きく感じています。(ただ、学級ごとの指導でも安全確保のために必要な大人の人数は変わりません。本校のスタッフ職員や支援員が献身的に活動したり、授業の空いた教員が率先してフォローしたりすることで成り立っています。手前味噌ですが、ありがたいなあと思います。)

7月は個人面談が予定されているため、午前授業の日が多くなります。下校後、ご家庭や地域で過ごす時間が長くなりますが、熱中症予防も合わせ、安全・健全な生活へのご配慮・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。